

新入生オリエンテーション 講話

2020/04/10 14:30～14:45

山本 清二

みなさん、こんにちは。
理事・副学長の山本です。

まず初めに、新入生のみなさん、入学おめでとうございます。
そして、ようこそ浜松医大へお越しくださいました。ありがとうございます。

今年は、桜が咲き乱れている様子は例年と何も変わらないのですが、ご承知のように新型コロナウイルス感染症拡大のため、世の中は劇的に動き、我々も感染拡大防止のために、こうして特殊な体制を取らざるを得ない状況です。
このような状況を踏まえ、やはり今日お話しておかなければいけないことは、新型コロナウイルス感染症拡大防止に関係することです。

君たち学生ひとりひとりに自覚ある行動を求む

まず一にも二にも、君たち学生ひとりひとりに自覚ある行動を求めます。
どのような自覚なのか、何を自覚してほしいのか。
すべての学年の学生諸君は、浜松医科大学に属するものとして、自らが医療従事者の一人であるという強い自覚を持って下さい。そして医療従事者として、自分が感染しない、まわりの人を感染させないという決意のもとに、常に最大限の感染対策を取って生活してほしいということです。
自らが医療従事者の一人であるという強い自覚？ まだ医療従事者じゃないぞ？ と思う人がいるかもしれません。もしそう思っている人がいるとしたら、今から、今の今からその考えを改めてください。

君たちへの教育の機会を維持しつつ感染機会をできるだけ少なくするために、授業はオンライン化し、ネット講義として継続していきますが、高学年の臨床実習・臨地実習については代替えの方法がありません。全国的には臨床実習を中断する大学が増えている中、本学では附属病院関係者の献身的なご尽力により、臨床実習を継続しています。

もし君たちの中で、たった一人でも、陽性疑いの人が出れば、その人から友達、先輩、教職員を感染させている疑いがあります。病院実習に入っている学生にも感染している可能性があります。君たちは全員医療機関に属する人間なのです。

医療人としての自覚と振る舞いを社会から求められている人間なのです。その自覚を持って日常生活にも細心の注意を払って生活してください。それが、君たち自身を感染から守ることにつながりますし、病院職員、教職員、同級生や先輩に、そして誰よりも患者さんに迷惑をかけないことにつながります。

私が君たちに「医療従事者の一人であるという強い自覚」を持ってほしいと言った意味は分かりますよね。君たちは浜松医大の一員である以上、医療従事者としての自覚をもたなければいけません。そのことを絶対に忘れないでください。

具体的には、

不要不急の外出の自粛、部活動の休止、対外試合や合宿の自粛、コンパ・宴会・懇親会の自粛、イベント参加の自粛、海外渡航の自粛を強く求めています。

7都府県、すなわち東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡に行ってきた場合には、浜松に帰ってから2週間の自宅待機を求めます。

その間の授業はどうするのか、これも心配になるかと思いますが、ネット講義で在宅学習してもらうことができます。

新型コロナウイルス感染症を取り巻く状況は日々激変していきます。どうか大学からの通知を見逃さないよう注意してください。よろしくお願いします。

こころの健康を保つ

さて、もう一つ新型コロナウイルス感染症に関連して、

みなさんは「コロナ鬱」という言葉を聞いたことがありますか？自宅待機が多くなると家庭内暴力が増加するという報道もあります。

世の中、自粛自粛自粛。外に出てはいけない、気晴らしもできない、世の中全体が日々悪い方向に向かっているような気分になることがあります。

その結果、不安や恐怖、怒りにつながったり、抑うつ・不眠といった症状になったりする場合があります。

忘れないでください。このような反応は誰でも起こること、ある意味自然な反応なのです。

しかしその反応が長く続いてこころの健康を害することのないよう、その予防のため、大学の保健管理センターは「新型コロナウイルス感染症流行期に、こころの健康を保つためにできること」という案内を出してくれています。今日のお昼前に、学生委員長で精神医学講座教授の山末先生からもお話がありました。また、印刷物が昨日みなさんにも配布されていますので、是非参考にしてください。

また、教員と話をしたとき、学務課の人たちに聞きたいことがあるとき、学生相談の窓口がいくつかあります。先ほどお話した「新型コロナウイルス感染症流行期に、こころの健康を保つためにできること」という案内にも書かれていますし、大学のHPを見てもらえば分かりますので、ぜひ活用してください。相談というほど大げさなものでもなく、学務課がその窓口になってくれますので、分からないことがあったり、不安を抱えている場合は連絡をください。

現在直面している「新型コロナウイルス感染症の流行」は必ず終息します。それまでの少しの辛抱です。後になって「自分たちは新型コロナが世界中で問題になっていた時に入学だったんだよなあ」、そう話ができるようになりますし、そうしなければいけません。

医療人としての勉学に対する姿勢について

さて、先ほど来、君たちに医療人としての自覚を強く求めるという話をしました。少しだけ話題を変えて、医療人としての勉学に対する姿勢についてお話をしたいと思います。

みなさんは、勉強することは知識を増やすことだと考えていませんか。もちろんこれはある意味正しいのですが、限られた時間の中で、どんどん増え続ける知識を身につけることが果たして可能でしょうか。医学の知識は驚くべき速さで増え続けています。1950年時点で、医学の知識が倍になるには50年かかっていたそうです。1980年、私が大学を卒業した年にはこれが7年になり、2010年には3.5年に、2020年には、なんと2.5ヶ月で医学の知識は倍になるといわれています (Densen P. Challenges and opportunities facing medical education. Transactions of the American Clinical and Climatological Association 2011 ; 122 : 48-58.)。猛烈なスピードで増え続ける医学の知識を覚えることは可能でしょうか。覚えた途端に、さらに増え続けていくわけですから、無理といわざるをえません。まして、大学で教えてもらおう、そう思っている人がいれば、今すぐにその考えを改めて下さい。

どうすればいいのでしょうか？

目の前にある事柄の「問題点を明確にし、それを抽出して」、「その問題を解決するために必要な情報を収集・分析して」、「みずから解決策を見出すことができる」能力を求められているのです。これは浜松医大のディプロマポリシーに書かれていることです。

医学は模範回答のない問題だらけです。「何が問題なんだろう」常にそう考え、その問題を解決するために最大限の努力をして下さい。これは「研究心の育成」にもつながります。

これが君たち一人ひとりに求められている「医療人としての勉学に対する姿勢」です。

幸いネット講義が始まっています。教員も新し方法で何か面白ことができないか、みんな興味を持って真剣に取り組んでいます。どうかこのチャンス皆さんが活かせるよう、ネット講義で積極的に発言し分からないところは聞いて、活発な双方向の授業になるようにしてください。

そして、最後に

私はみなさんが成長して、立派な医療人として羽ばたいていくのを、とっても楽しみにしています。そんな人たちとの出会いに感謝して、私のお話を終わりにします。

ご清聴ありがとうございました。